

- 2 駅前のお舗あぐらをかいて売り 会員
「あぐらをかいて」というところが面白い。句体として「駅前のお舗」で切れている点が、現代川柳ならではの感じ。
- 3 このセンス大丈夫かな患者の目 会員
「あるある」という視点がいい。社会の高齢化を迎えて、こういった視点の作品がこれからも沢山詠まれてくるのではないかな。
- 4 たわいなく猫の話なんかしてさ 会員
「猫の話なんかしてさ」という部分だけで作品だといえる。川柳の非定形作品に関しては昔ほど議論が行われていない。その辺りを考えるのも一考。
- 5 此の度はどうも後が続かない 会員
以前ならストレートに忌引きで話になるのだが、昨今は慶事でもこのような状況に陥る場合がある。そこが面白い。
- 6 国内で弁当にした鰻です 会員
川柳は省略の文芸であるが、単に縮めるのでなく、省略することによって伝えたい事柄を浮き上がらせるのである。また全く違う言葉を置くことで、それを浮き上がらせたりする。句意としては8とおなじであるが、何処まで伝わるかな。
- 7 アウトロー気取った父の子煩悩 会員
下五で決まっている。やはり川柳は「止め」なのだかと再認識。
- 8 納豆も氏素性まで調べられ 会員
昨今の食品偽装。大豆といえば遺伝子組み換えか非組末かであるが、表示の仕組みとして5%まで含有していても組み替え不使用と表示できることはほとんど知られていない。食品衛生法(厚生労働省)、JAS法(農林水産省)と縦割りの弊害も存在。
- 9 王子様ブームを笑うテグジュベリ 会員
サン・テグジュペリは「星の王子様」の作者。
- 10 昭和史の復刻本のおぞましき 会員
- 11 警策の音 てっぺんに突き抜ける 会員
(4) [仏] 禅宗で、座禅中の僧の眠気や気のゆるみを戒めるためなどに用いる棒。長さ四尺二寸(1.3メートル)ほどで先が板状。きょうさく。
- 12 ふとんまで敷かせて演技だったとは 一般
仮病かなとおもう。朝青龍? 別の見方をすれば、ちょっとなまめかしいかも。
- 13 百日紅おまえも青春終ったな 一般
秋になるとはやくちって行く百日紅をみての感傷 面白い
- 14 光り物付けて熟女の安堵感 一般
下五がいい。「熟女の安堵感」とは面白い
- 15 生き様で傘寿卒寿が逆の顔 一般
傘寿とは、数え年で80歳。また、その祝い。
傘寿の語源・由来
傘寿は、「傘」の略字が縦書きの「八十」に見えることから、80歳を呼ぶようになった。
傘寿の祝い方は、基本的に還暦と同じで、古希・喜寿と同じく紫色の物となる。
卒寿とは、数え年で90歳。また、その祝い。
卒寿の語源・由来

卒寿は、「卒」の略字「卒」が「九十」に分解できることから、90歳をいうようになった。卒寿の祝い方は、基本的に還暦と同じで、古希・喜寿・傘寿と同じく紫色の物となる。

- 16 消しゴムがあるから愚か繰り返えず 一般
人間に忘れるという機能がなかったら、とても辛くて長生きはできない。などという
が、この作品はそれをぎゃくにとって面白。
- 17 後ろ髪引かれる恋に振り向かず 一般
- 18 財務省百分率のお念仏 一般
金利のことだろうか？公定歩なら日銀・・・
- 19 生簀でも呼び名変えてく出世魚 一般
そんなに生簀で長生きなのか？と思ったが、これも食品偽装のことを取り上げて
いるのではと感じた。
- 20 強がりの魔法も錆びた魔法の鬱 一般
「強がりの魔法」という部分が川柳。ポップドラゴンというサイトに
「なぜ魔法は若返ろうとしないのか(野坂祐一さん)」というのがあったのを思い出
した。

サン・テグジュベリ

1900 - 1944。名門貴族の子弟としてフランス・リヨンに生れる。

海軍兵学校の受験に失敗後、兵役で航空隊に入る。除隊後、航空会社の路線パイロットとなり、多くの冒険を経験。